補助事業番号　　24-1-106
補 助 事 業 名　　平成２４年度　学術・文化の振興のための活動　補助事業
補助事業者名　　公益財団法人　中近東文化センター

１　補助事業の概要
（１）事業の目的
　トルコ共和国の中央部に位置するカマン・カレホユック遺跡には、古代オリエント世界の歴史そのものが凝縮されている。この遺跡における発掘調査を通し、世界の共有財産である文化財遺産の発掘調査、修復、保護を実践することにより、世界の考古学、歴史学に寄与するのみならず、グローバルな視点に立った日本の文化行政を考えることのできる研究者を養成し、もって公益の増進に寄与する。

（２）実施内容
① 考古学の発掘調査研究者養成（現地）
平成24年度学術・文化の振興のための活動補助事業は、第27次カマン・カレホユック発掘調査（６月25日～９月７日）、および第4次ヤッスホユック発掘調査（８月27日～11月３日）と併行して行なった。カマン・カレホユック遺跡は７月５日から本格的な発掘作業に入ったが、その発掘現場は若手研究者、学生を育てる上で、重要な場となった。現場では、遺跡の層位の見方、出土遺物の取り上げ方、取り上げ時点から保存処理を行う方法など、具体的な指導が続く。研究所内の収蔵庫や保存修復室、考古学博物館でも専門家からの講義が行われた。
　考古学フィールドコースは、第１回を７月９日～７月21日、第２回　７月23日～８月４日、第３回　８月６日～８月18日、第４回　９月10日～９月22日のスケジュールで開催し、総勢17名の学生が参加した。学生たちのほとんどは、トルコが初めてであり、トルコ語が話せない状態で参加するが、すぐに現場で必要な言葉を覚えて、トルコ人労働者とコミュニケーションを取るようになる。これは、若者ならではの柔軟さと思われるが、英語圏以外の国の人々との交流は、学生たちにとって大きな自信となり、欧米以外の世界にも目を向ける機会となるものと確信する。学生たちへの講義は、アナトリアの歴史、発掘システム、遺物の実測方法、日誌の書き方、保存修復方法など現場を通した「考古学」の実際を教えるものであった。

http://www.jiaa-kaman.org/jp/announce.html#120723
http://www.jiaa-kaman.org/jp/announce.html#120813
http://www.jiaa-kaman.org/jp/announce.html#120928

②調査報告会の開催

当該年度は、下記のような日程でトルコ調査報告会・研究会を行った。

12 月 23 日（日）2012 年度トルコ調査報告会

12 月 24 日（月・祝日）第 22 回トルコ調査研究会

会場：武蔵野レインボーサロン（東京都武蔵野市）

３月 16 日（土）第 23 回トルコ調査研究会

会場：東京大学理学部２号館講堂（東京都文京区）

2012年度トルコ調査報告会では、アナトリア考古学研究所の活動、第4次ビュクリュカレ発掘調査、第27次カマン・カレホユック発掘調査、第4次ヤッスホユック発掘調査の発表を行った。

第22回トルコ調査研究会では、出土遺物の化学分析結果や遺跡の地中探査による結果報告にはじまり、午後は主にカマン・カレホユック遺跡より出土している鉄資料について、考古学、文献学、化学分析（放射性炭素年代測定など）の面から発表、討論が行われた。

2013年３月の第23回トルコ調査報告会は、前回の研究会では討論しきれなかった新らたな鉄資料について、考古学、化学分析、冶金学などの面から発表と討論を行った。

http://www.jiaa-kaman.org/jp/announce.html#130323

２　予想される事業実施効果

①考古学の発掘調査研究者養成（現地）

本補助事業において、「発掘調査」、「文化財保存」は完全に一体化したものであり、どちらも等しく重要なものと捉えている。

若手研究者、学生たちにとって、遺跡での発掘作業、そこから出土した遺物を保存修復するまでの一連の作業を経験したこと、海外の研究者との交流は、国内ではできない貴重な体験であったはずである。このような環境は、特に学生たちにとって、自分たちの将来を考える上で大きな影響を与えるものであっただろう。若手研究者の多くは、例年、日本の発掘現場に戻るものが多く、特に考古学フィールドコースにより修得した「文化財保存、修復」技術は、日本国内の現場に活かせるものと確信している。また、今後の日本における「文化財保存」の重要な一翼を担っていくものと考えている。

②調査報告会の開催

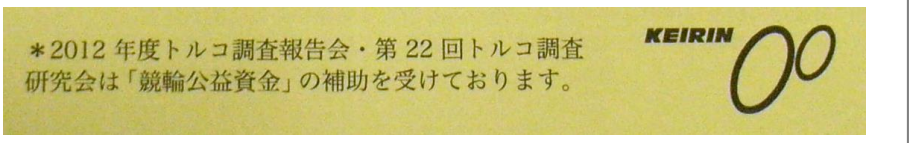
参加者の多くは一般の人々であり、その比率は年々増している。当該年度は特に第 22 回、第 23 回研究会で鉄資料を扱ったことから、研究者のみならず、一般の人々、マスコミ関係者らの注目も集まることとなった。今後さらに人々の注目を集めて行くことになるだろう。

新聞をはじめとするマスコミの力は反響も大きく、それ故、日本人にとっては遠い存在といえるオリエントの歴史が、もっと身近なものとして捉えられるようになると期待している。さらに現代の中近東に目を向ける機会が増えるという効果も期待される。

３　本事業により作成した印刷物等

資料集

「2012年度トルコ調査報告会・第22回トルコ調査研究会」



４　事業内容についての問い合わせ先

団　体　名：　公益財団法人 中近東文化センター
（コウエキザイダンホウジン　チュウキントウブンカセンター）

住　　所：　〒181-0015
東京都三鷹市大沢3-10-31

代　表　者：　理事長　阿部　知之（アベ トモユキ）

担 当 部 署：　アナトリア考古学研究所（アナトリアコウコガクケンキュウジョ）

担 当 者 名：　事務担当　吉田　知子（ヨシダ トモコ）

電 話 番 号：　0422-32-7665

F　A　X：　0422-31-9453

E－m a i l：　tokyo@jiaa-kaman.org

U　R　L：　http://www.jiaa-kaman.org/